生涯学習の拠点となる継続教育センターが完成

成田ユネスコ協会の世界寺子屋運動
ベトナムに継続教育センターを
―建設資金の一部を提供―

「すべての人に文字を学ぶ機会を」を合言葉に寺子屋運動を行ってきた成田ユネスコ協会は、集めた資金を日本ユネスコ協会を通じて、ベトナムライチャウ省の継続教育センター（教員の養成と教員トレーニングのための施設）を建設する資金の一部として送りました。

昨年9月に同センターが完成。支援先から開所式への招待状が届き、成田ユネスコ協会の代表5人は、1月15日～21日に現地を訪れ開所式に出席しました。歌や踊りが披露されるなど地元の人々の熱烈な歓迎を受け、交流を深めて帰国しました。

お祝いに駆けつけた地元の人たち

縁側に置かれた机に向かうのが日課に

小泉さんの描いたシンビジウム

リハビリのために左手で絵を描き病を克服
小泉幸一さん（成毛・78歳）

自宅で机の上の花をスケッチする小泉さん。こうして絵を描くことが日課になったのは、今から9年前のことです。さまざまな役職に付き多忙な毎日を送っていた小泉さんが、突然脳梗塞で倒れました。一命はとりとめましたが、後遺症で右半身が動かなくなってしまったのです。リハビリにと医師が勧めてくれたのが「絵を描くこと」。右利きだった小泉さんは、左手に色鉛筆を持ちスケッチを始めました。なかなか思うように描けなかった絵も、たくさん描くうちに上達し、担当医師も驚くほどになりました。同じ病気でリハビリに励む人の支えになればと、小泉さんの絵は病院の廊下に飾られています。2年間のリハビリ通院が終わるころには、文字を書いたり話したりすることも支障なくできるようになりました。

小泉さんの頑張りは近所でも評判になり、画材用の花が届けられることもしばしば。小泉さんはお礼にと絵をプレゼントしています。「とにかく絵が好きで毎日描いています。こうして元気になれたのも絵のおかげ」と今日もスケッチブックに向かっていました。

クック・スンロク市長
と握手する小川市長

市長と議長が韓国・井邑（せいゆう）市を訪問
「友好交流推進協議合意書」を締結する

韓国・井邑市と本市の交流は、平成12年と13年に井邑市の中学生が市内の家庭にホームステイするかたちで行われてきました。今後の交流をさらに進めようと、1月29日に小川市長と渡邉議長が井邑市を訪問し、両市の間で「友好交流推進協議合意書」が締結されました。国際交流協会ではこれを受けて、ことしの夏休みに中学生を井邑市に派遣（ホームステイ）する予定とのこと。これから展開される交流が楽しみです。

歓迎会の一コマ

高層住宅が立ち並ぶ井邑市

おめでとう数え100歳
明治36年生まれの7人にお祝いの品

「数え」で100歳を迎えたお年寄りに、2月13日、市からお祝いの品が届けられました。

対象となったのは明治36年生まれの7人（平成14年1月1日現在）です。岩沢虎之助さんは“福寿”と書いた直筆の色紙を市長に贈り「じっとしていられない性格なので、毎日庭を掃除したり、畑仕事に出かけたり…。医者に行くのもバスを利用して一人で行きます。日記を書くのが日課で今では109冊になりました」と笑顔で語ってくれました。どうぞいつまでもお元気で。

勝田　静さん（大竹）　服部みつさん（飯田町）
岩館やすさん（押畑）　岩沢虎之助さん（西和泉）
平澤喜七さん（野毛平）　池田建治さん（花崎町）
小川とめさん（花崎町）

直筆の色紙を手渡す岩沢さん